

水産資源を守り、育てること。
そのためにも海との持続的な共存を探ります。

周囲を海に囲まれた日本。

海がもたらす恵みを誰もが享受してきました。

地球の温暖化や汚染による海の生態系への懸念。

農林中央金庫は、JFグループの一員として

漁業で生計を立てる人々との連携を進めています。



浜の未来を育む、 さまざまな活動

環境・生態系 保全活動への支援



わが国には、約6300の漁業集落と2176の漁業地区があります。漁業地区の7割強には藻場、干潟、サンゴ礁などいずれかの生態系が存在しています。しかし、これらの生態系は沿岸域の開発、陸域からのさまざまな負荷によって年々減少する傾向にあります。

藻場は、多種多様な生物の産卵や幼・稚魚の成育の場であり、海水の浄化や透明度を回復させる役割があります。干潟は、貝類、ゴカイ、バクテリアなどの多様な生物が生息しており、干潟に流れ込む有機物を分解し、海水を浄化させる役割を果たしています。これらの藻場や干潟は、わが国の経済成長とともに多くが消滅しましたが、漁業者は漁業生産を維持するためにもこれらの生態系を守り育てることが大切であると考え、藻場づくりや干潟の管理に努めています。

また、全国のJF(漁協)でも「資源保護や管理」「害敵生物の駆除」「種系やプレートによる藻場造成」「干潟における一枚貝や稚貝の移植・放流」「サンゴ礁域における赤土などの流入防止対策」などさまざまな保全・再生活動を行っています。さらには、JF(漁協)の青壮年部や女性部を中心に、漂着したゴミ等の回収・清掃や、森を守ることを通じて豊かな海づくりを目指す植樹活動などにも取り組んでいます。

当金庫は、こうした自主的な活動に協力するため、浜の清掃作業に対する「ゴミ袋の提供」、子どもたちや地域住民に対する啓発活動として、地球環境について学ぶ糸口として活用するための「海藻おしは葉」などを提供して喜ばれています。

なお、平成19年度は、地域の祭りや交流会など全国で572のイベントが開催され、合計14万1424枚の「葉」が配布されています。また、平成20年度から配布を開始した廃棄物処理袋については、上半期で314グループ(4万961人参加)に対し6万3000枚の配布を行いました。



海藻おしは葉

資源管理型漁業の推進

健康志向の広がりから、世界が水産資源に熱い視線を送るようになってきました。無尽蔵だと思われてきた海の資源も、このままでは先細りすることは明らかです。

獲るから育てるへ。日本の海でも、漁獲量を決める、産卵場を禁漁区にする、漁法を制限して小さい魚は獲らないなど、さまざまな取組みが始まっています。また、稚魚を育てて放流するなど、魚を増やす試みも資源回復に向けた積極的な取組みとして、全国各地で進められています。

JFシエルナース (貝殻魚礁)の設置

魚が集まる「瀬」を人工的に造る試みを「魚礁」といいます。

JFグループでは、貝殻を素材としたJFシエルナースで、えさ場、かくれ場、産卵場、藻場、幼稚仔(稚魚、稚貝)などの保護育成場を造り、資源の回復と貝類養殖の副産物である貝殻リサイクルを進めています。





持培養・海の環境保全に対する意識の高揚を図り、水産業への認識を深める活動に支援を行っています。

当金庫は、昭和56年から毎年開催されている水産業最大のイベント「全国豊かな海づくり大会」(主催：豊かな海づくり大会推進委員会、後援：農林水産省)に協力しています。第28回となった平成20年度は、新潟市で4万7000人以上が参加して開催され、海や魚に親しむさまざまな催しが行われました。

「豊かな海づくり」 運動への協力

当金庫は、JFマリンバンクの全国機関であると同時に、JF(漁協)、JF漁連、JF信漁連、JF全漁連等からなるJFグループの一員でもあります。漁業を取り巻くさまざまな課題に対応するため、次のような活動にも協力しています。

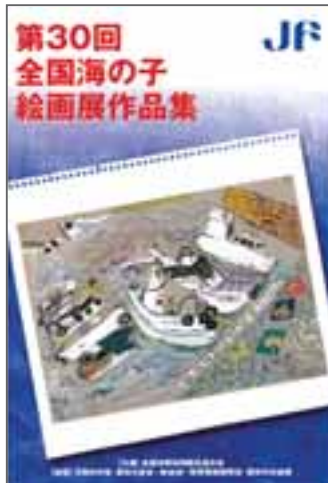
社会・ 環境貢献活動



全国海の子 絵画展への協力

当金庫は、昭和53年から毎年開催されている「全国海の子絵画展」(主催：全漁連、後援：文部科学省・農林水産省ほか)に協力しています。

この絵画展は、絵を描くことを通じて、漁業に対する理解を深めるとともに、漁業に夢を持った子どもたちを育てることを目的に、小・中学生を対象に実施されており、平成19年度には、全国から約2万8000点(参加校1149校)もの応募がありました。



JFグループとは？

JFグループとは、日本の漁業協同組合の総称です。
JFグループは下のような組織で構成されています。

